

OPINION

中部経済新聞

カイゼン哲学の奥深い基本を体得している企業経営者や管理者はそれほど多くはない。多くの企業は、多くの企業がすでにカイゼン技術や哲学を適用したり、また適用しようとしています。残念なことには、この取り組みはしばしば、基礎的な手法や方法論の一過性の適用に終わってしまっています。代表例として

ナヒゲーター

は5S、見える化、問題解決手法、小集団活動で、ときにはバリユー・ストリーム・マップや標準化をしてTPMです。カイゼン哲学の奥深い基本を体得している企業経営者や管理者はそれほど多くはない。

期待の日本へ 世界各地から

59

カイゼンの普及

長期間にわたって企業文化にカイゼン哲学を根付かせているのは、くわすかといえます。

カイゼンをマスターするために、大企業は基本として日本やヨーロッパ、アメリカなどからコンサルタントを招聘(しょうへい)しています。他方、中小企業は専門家招聘のコストが高いため、EBRD(欧州復興開発銀行)やカイゼン工業省(Kaizer Industry)からの小額の助成金によってのみカイゼン展開サービスを受けていま

カザフをとりまく経営コンサルティング動向(下)

した。

この5年間、カイゼン専門家(やトレーナー)のトレーニングが積極的に広まっています。アルマトイには、カイゼン・セクターやカイゼン・クラブなどがあり、企業

の経営者、管理・監督者、専門家にカイゼンの哲学、手法、方法論の基礎を教育しています。しかし残念ながら、その教育訓練の質には大いに不満が残っていたといえます。

ルタント)は、日本の哲学の知識や特色を積極的に展開、推進しています。RIIM中産連の支援を受けて、2021年国際的な水準でのMTK専門家の育成は、カイゼンの普及と習得に新たな段階をもたらした。中央アジア・コーカサス地域(CA)諸国の多くは、活動展開方針を策定し、このシステムは、日本の哲学を真に理解し、カイゼンに関する知識レベルを高め、それらをカザフ企業の文化や社員のメンタリテイに適合させることを目的としています。

すでに最初の5人の候補者たちがMTK教育を受け、認定済みです。そしてカイゼン哲学の知識や特色を積極的に展開、推進しています。RIIM中産連の支援を受けて、2021年国際的な水準でのMTK専門家の育成は、カイゼンの普及と習得に新たな段階をもたらした。中央アジア・コーカサス地域(CA)諸国の多くは、活動展開方針を策定し、このシステムは、日本の哲学を真に理解し、カイゼンに関する知識レベルを高め、それらをカザフ企業の文化や社員のメンタリテイに適合させることを目的としています。

【アナトリー・フェスコフ、RIIM中産連】

(月曜日に掲載)